受診のときは、お薬手帳や薬剤情報提供書をお持ちください

「今どんな薬を飲んでいますか」
受診のときにこう聞かれたことはありませんか?
そして、皆さんはちゃんと答えることができますか?

お薬手帳や薬剤情報提供書には、飲んでいる薬に関する大切な情報が書かれています。病状や治療計画に応じた休薬や再開を行うために大切な情報を提供できるのは、皆さんご自身です。お薬手帳や薬剤情報提供書を上手に利用して、ご自身の治療に積極的に参加してみてください。

複数の医療機関から薬をもらうと、同じ成分の重なりや飲み合わせにより薬本来の効果が期待できないばかりか、重大な副作用につながる危険性もあります。また、手術や検査を受けるときに中止する薬もあれば、一方で治療効果が薄れることを避けるため休薬できない場合もあります。このような理由で、皆さんの飲んでいる薬について教えていただく必要があります。

【病院へのアクセス】

鉄道	JR	東海道本線「岐阜駅」で下車	
	名古屋鉄道	名鉄本線「名鉄岐阜駅」で下車	
バス	岐阜大学・病院線	約30分	320円
	直行便清流ライナー	約25分	
	岐南町線	約35分	
	岐阜大学・病院線	約30分	
	岐南町線	約35分	
タクシー	JR岐阜駅 名鉄岐阜駅	約20分	約3,000円

【駐車整理料金】

区分	駐車整理券提示時間	提示場所	料金
外来患者	平日8:30〜17:00	外来会計窓口	受診日当日は無料
	上記以外の時間	夜間窓口	
入院患者	平日8:30〜17:00	入退院受付	入・退院日当日は無料
	上記以外の時間	夜間窓口	
※入院期間中に駐車されている場合は、一日あたり駐車料金500円となります。			
面会 お見舞い 付き添い等	①利用開始より30分まで		無料
	②利用開始より30分を超え90分まで		200円
	③利用開始より90分を超え1時間増すごと		②+100円ずつ加算(1時間) (ただし、その額が500円を超える場合は500円)
	④利用開始より24時間を超えるごと		③+500円ずつ加算(24時間)

アクセスマップ

自家用車でお越しの方は、外来患者駐車場が約500台ありますのでご利用下さい。(24時間利用可)

平成27年度 病院ボランティア

感謝状贈呈式・懇談会・研修会

当院では、毎年、一定以上の時間ボランティア活動をしてくださった方に対し、感謝状を贈呈しています。今年度は、8名のボランティアの方に感謝状を贈らせていただきました。

その後、意見交換を兼ねた親睦会、研修会を行いました。病院では、ボランティア活動をしていただける方を募集しています。詳しくは、病院ホームページ、院内掲示のポスターをご参照ください。

病院広報 うぶね(鵜舟) vol.27 2016年2月発行 発行/岐阜大学大学院医学部系研究科・医学部情報委員会附属病院部会
〒501-1194 岐阜市柳戸1番1 TEL:058-230-6000(代表) http://hosp.gifu-u.ac.jp E-mail:hwebmstr@gifu-u.ac.jp

うぶね[鵜舟] 2016年2月発行
特集号

岐阜大学医学部附属病院広報誌

うぶね

Vol.27
Gifu University Hospital

副病院長 廣瀬 泰子　副病院長 水田 啓介　病院長 小倉 真治　副病院長 飯田 宏樹　副病院長 村上 啓雄

最高の病院へ

新年のご挨拶を申し上げます。
皆様のおかげで新しい年が迎えられましたことを
心より感謝いたします。
本年も岐阜大学医学部附属病院をどうぞ
よろしくお願いいたします。

築いた土台が熟成し、定着した昨年

昨年は、チーム医療の推進や病床稼働に関する取り組みをはじめ、
一昨年行った改革が定着したことを実感することができました。
多職種が連携し、きめ細かい医療を提供するチーム医療は当院の大きな強みになっています。
また、昨年1月に設置したベッドコントロールセンターも順調に稼働し、
より多くの患者さんの受け入れが可能になりました。
これらの当院の取り組みは、厚生労働省による特定共同指導や立ち入り検査においても、
正当に評価されています。まさしく、昨年の干支である羊が持つと言われる
「黄金の蹄（The golden hoof）」によって、肥沃な大地が創造された年だったといえます。

今年は“伸ばす”年へ

今年の干支は「申（さる）」。この「申」という字は「シン」とも読み、「伸びる」という意味を持っています。
今年は、肥沃な大地に根付いた樹を、この「申」の字のとおりさらに伸ばしていく1年にします。
たとえば、昨年、医師等に実施した「コーチング研修」では、医療現場の中心となる人材が
研修で得た内容を発展的に展開できるよう指導していきます。
また、病院長として職場環境の改善にも積極的に取り組みます。
従業員の満足が患者サービスへと還元されることを願って、これからも現場の声を聞き
さらに満足のいく職場環境へと改善していきます。
そして、地域医療連携という観点からは、昨年は県内の関連病院へ足を運び
関係を深めてまいりましたが、今年も引き続き、顔が見える病院として地道に活動し、
地域における医療連携を強化していきます。
今年は、日本病院機能評価機構が実施する病院機能評価を受審します。良い評価を受け、
客観的にも認められることで、当院の医療をより信頼していただけると考えます。

“最高の病院”へ

目指すのは「最高の患者サービス」を提供する「最高の病院」です。患者さんが来院し、
退院するまでの一連の流れの中で生じるあらゆる障害を取り除き、時間・身体・経済面での様々な
負担をなくすという考え（PFM:Patient Flow Management）に基づいた施策を実現します。
その施策のひとつが入退院センターの設置です。
このように、「最高の病院」に向かって成長し続ける病院となるよう職員一丸となって邁進してまいりますので、
今年も岐阜大学医学部附属病院にぜひご期待ください。

岐阜大学医学部附属病院　病院長　小倉 真治

チーム医療における専門職の役割

岐阜大学病院では高度な専門職チームにより、互いに連携、協力し合い、患者さんに最も適した医療を提供しています。

看護師／古市 ふみよ

高齢化社会を迎え病気を抱えて生活する人が増えています。看護師は「治療」と「生活」の両面から患者さんを捉え、治療に伴う身体や心の変化と生活への影響を予測してケアを提供しています。患者さんと接する時間が最も長い看護師は、ケアだけでなく代弁者として患者さんの思いを他の医療者に伝える役割や、コーディネーターの役割を担っています。私は摂食嚥下障害看護認定看護師として栄養サポートチームの一員となり、患者さんが安全に食事を摂れるように関わっています。

医師／小倉 真治

近年では医療技術の高度化に伴い、各分野で分業化が進んでいます。患者さん一人ひとりの病状に応じて医療スタッフが連携し、最善の治療に当たるのがチーム医療です。医師の役割としては、診断と治療方針を決定し、自ら治療に臨み、チーム全体へ適切な指示をします。患者さんやご家族へしっかりご理解いただくように病状の説明をし、治療導入、処方を行います。また、各部門・医療スタッフとコミュニケーションを図ることで、医師にはない知識や技術、意見を引き出していくまとめ役としての責任も担っています。

薬剤師／飯原 大稔

患者さんに安心して治療を受けてもらうため、抗がん薬による点滴治療をする全ての患者さんに薬剤師が面談を実施しています。患者さんの体質や、使用する薬との相性、副作用を考慮した薬の選択や調節をしています。また、抗がん薬による副作用を予防したり、軽減するための対応を行っており、これらは医師、看護師と情報を共有し、協力して取り組んでいます。

歯科衛生士／堀内 麻利子

口の中に汚れが多いと、様々な感染症や合併症を引き起こすことがあります。例えば、化学療法や放射線治療の副作用で口内炎ができると、食事摂取が困難になったり、傷口から菌が体に侵入することにより、治療に挑むための体力が低下します。また、手術を受けられる患者さんは、術後肺炎を起こすこともあり、治療中もしっかり食べて体力をつけてもらい、治療が円滑に進むよう、口の中を清潔に保つお手伝いをしています。

リハビリ分野／服部 良

リハビリテーション科は理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の３職種が活動しています。理学療法は主に基本的動作能力の回復を図るため、運動療法と物理療法、動作練習等を行います。作業療法は応用的動作能力や社会的適応能力の回復を図るため作業を通じて日常生活動作練習を行うほか、ハンドセラピーも実施しています。言語聴覚士は音声・言語・嚥下機能や聴覚に障害のある方に対して、言語訓練等を行うとともに嚥下療法も積極的に実施しています。

臨床検査技師／太田 浩敏

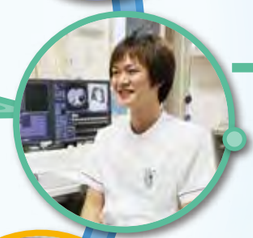
チーム医療において専門性を発揮するには、正確な検査技術、検査の意義、検査データと病態および検査結果の解釈などの知識とコミュニケーション技術を含む検査説明の知識・技術が必要とされます。検査に関するあらゆる情報を専門的な知識をもって迅速かつ正確に，医療従事者に提供し続けていることが重要と考えます。そのため、各種研修会や学会などに参加し、更には認定技師資格の習得に日々研鑽を積んでいます。

視能訓練士／濵﨑 利恵

「見る機能＝視能」を医師の指示のもと、検査・評価する医療技術者です。視力・視野検査等の一般検査、斜視弱視等の視機能回復訓練、低視力者への眼鏡・ルーペ等の調整リハビリ指導訓練を行っています。患者さんの「見え方の質の維持、向上」を支援し、「生活の質の維持、向上」に繋がるよう、眼科の立場から患者さんに関わりチーム医療の一員としての役割を担っています。

診療放射線技師／松本 圭介

医用画像検査（X線撮影、CT、MRI、血管造影、核医学検査等）において診断に有用な画像の撮影、提供をしています。血管造影部門ではカテーテルを用いた様々な検査、血管内治療が行われ、放射線治療部門と共に医師、看護師、臨床工学技士等、様々な職種と協力し検査・治療を行っています。また、放射線を取り扱う業務のため、患者さんや医療スタッフが安全、安心に検査・治療を行えるようプロフェッショナルとして貢献しています。



ソーシャルワーカー／澤﨑 久美子

皆さんは病気・けがによって経済面・職業・家族関係などの生活環境を変えなければいけない状況が起きたらどうしますか？そのような状況が生じた場合、社会福祉の専門職として医師や看護師などの医療スタッフとともに、患者さんがその人らしく生活していける方法を一緒に考え、サポートしていきます。そしてその状況に応じ、地域の医療福祉関連機関等と患者さんをつなぐ役割をしています。

臨床心理士／前川 恵里

主な役割は、心理検査や心理療法の実施です。心のケアが必要な方に、じっくり話をうかがいながら心理的な視点からみた援助の方針を考え、カウンセリングを行っています。また、治療に向かう患者さんとご家族の不安に耳を傾け心理面のケアを行うことで、安心して治療を受けられるようにサポートしています。心の動きをみていくためには、身体や生活などの状況を理解して広い視野で患者さんをとらえることも大切なので、多職種の方々と連携しながら援助の目標を共有することに努めています。

管理栄養士／西村 佳代子

栄養状態を良好に保つことは、治療の効果を高めるとともに感染症や合併症のリスクを減らすことができます。私たち管理栄養士は、栄養サポート（NST）、褥瘡対策、緩和医療チームに参画しています。チーム内では、多職種と連携を密に行い、より適切な治療目標を立案するための栄養情報を提案しています。また、様々な病態に対応できるよう各種学会が認定するライセンスを取得し、より専門性の高い視野から患者さんにとって最適な食事管理が行えるよう日々の業務に努めています。

臨床工学技士／柿田 英登

医療現場で使用される生命維持装置の操作、管理を行っています。医師、看護師などの医療スタッフが安全に治療に臨めるように医療機器をメンテナンスしいつでも使える状態に保持すること、生命維持装置を操作し、手術、治療を行うことが我々の使命です。生命維持装置とは、人工心肺装置、人工呼吸器、血液浄化装置、心臓ペースメーカーなど数多くの医療機器があり、今日も患者さんへ安心、安全な医療を提供しています。

保育士／服部 麻里

役割の一つに「育児支援」があります。患児と家族の育児支援では、多職種との連携が必要であり、特に看護師と一緒に行う業務が多いためこどもや家族との関わりの中で、互いに連携を図ることが重要だと思います。入院生活の中で、季節を感じ楽しい時間を経験したりすることで日常のストレス軽減や意欲へのきっかけになるように多職種と共に、病棟行事を充実させています。

組織横断的に活動する5つのチーム

感染対策　呼吸療法支援　褥瘡 対策　緩和医療　栄養サポート

若手スタッフ　今年の目標

2016年の目標！

やる気と元気いっぱいの若手スタッフに、今年の目標をインタビューしました。

一人でも多くの救命の力になりたい！

高次救命治療センター
山路 文範

本を1の冊読む！

リハビリテーション科
森林 隆介

大学病院の職員として自覚を持った行動をする。栄養士としてのスキル、知識の向上に努める

栄養管理室
城地 めぐみ

カテーテル検査を安全に1人で出来るようにする！！

脳神経外科
大鷲 悦子

正確で迅速で明るい麻酔を。

麻酔科疼痛治療科
島倉 孔哉

臨床的価値の高い検査結果を迅速に提供する！

検査部
大森 由佳里

頑張る！

成育医療科・女性科
坊本 佳優

体脂肪率−5%

消化器内科
中村 みき

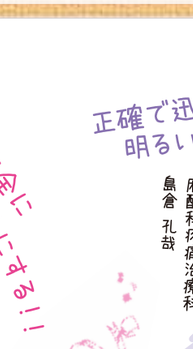
新規がん免疫療法の開発。

血液・感染症内科
二宮 空暢

笑顔を忘れない

腎臓内科
宇野 香美

看護部
芝田 愛紗



患者さんと正面から向き合う！

診断が難しいといわれて受診された患者さんの診断を頑張ってつけたい！

総合内科
不破 雅文

プライベートを充実させる。

医療機器センター
鷲見 成業

堅実に！

整形外科
岩田 直也

ミスなく心のこもった調剤ができるようになりたい。

薬剤部
志水 真也

マニュキュア認定資格をとる。

放射線部
安藤 香織

自分で自信をもって判断できるようになる。

精神神経科
篠田 有加里

カッコイイ眼鏡をかける。

眼科
小澤 憲司

少しでも多く実践経験を積む。

歯科口腔外科
山﨑 志穂

今年もよろしくおねがいします！

挑戦なくして成果なし

松尾 政之
MATSUO MASAYUKI

PROFILE
生年月日／1968年7月2日(47歳)
岐阜大学大学院医学系研究科
腫瘍制御学講座放射線医学分野 教授
岐阜大学医学部附属病院放射線科 科長

1998年／岐阜大学医学部　卒業
1998年／岐阜大学医学部附属病院　臨床研修医
2003年／癌研究会附属病院　放射線治療科研修医
2004年／岐阜大学医学部大学院医学研究科内科系専攻(放射線医学)修了
2004年／岐阜大学医学部放射線科　助手
2005年／木沢記念病院　放射線治療科部長
2005年／University of Wisconsin, Madison. Department of Human Oncology, Post-doctoral fellow, USA
2011年／Radiation Biology Branch, National Cancer Institute, National Institutes of Health (NIH), Senior Investigator (Staff), USA
2014年／名古屋市立大学医学部　放射線科准教授
2015年／岐阜大学医学部　放射線科教授

【免許および資格】
2004年／日本医学放射線学会 放射線科専門医
2008年／日本放射線腫瘍学会 放射線腫瘍学認定医
2010年／日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

【学　位】
2004年／医学博士(授与大学名:岐阜大学)

新任の先生をご紹介します！

【賞】
2002年／日本磁気共鳴医学会
平成14年度国際飛躍賞
2003年／岐阜医学研究協議会
平成15年度岐阜医学奨励賞
2006年／日本放射線腫瘍学会
第19回学術大会優秀発表賞
2008年／コダック国際学会トラベルフェローシップ
2011年／Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (米国核医学会) fellowship
2014年／American Society for Radiation Oncology (米国放射線腫瘍学会) 2014 Annual Meeting Basic Science Abstract Award in the Biology

【学会活動等】
日本放射線腫瘍学会代議員、日本医学放射線学会、国際癌治療増感研究協会、日本放射線影響学会、日本癌治療学会、日本脳腫瘍学会、日本磁気共鳴医学会、各会員
American Society for Therapeutic Radiology and Oncology (International Member), European Society for Therapeutic Radiology and Oncology (Non-European Member)

private time

高校時代は野球部に所属し、下手ながらも甲子園を目指していたので、未だに趣味は野球観戦。特にMLBワシントンナショナルズが贔屓のチームで留学中はナショナルズパークに何度も足を運びました。

最先端の医療機器を駆使してがん治療に取り組む

放射線科は、画像診断・画像下治療(IVR)・核医学・放射線治療の部門があり、各臓器別診療科専門医師だけでなく、専門性の高い技師・看護師などの多職種とチーム医療を形成し密接な連携をとりながら、日常診療を行っています。

近年の画像診断機器や放射線治療装置の進歩は目覚ましいものがあります。画像診断は岐阜大学放射線科の伝統ある部門であり、岐阜大学や岐阜県内の多くの施設を通して、地域医療にも診療に貢献してきました。

画像下治療(IVR)は、岐阜大学病院において、救急部門と協力し、365日24時間体制で救急患者の治療に日々貢献しています。放射線治療は、手術、抗がん剤と並ぶがん治療の大きな柱です。生活習慣の欧米化などによって、肺がん・乳がん・大腸がん・前立腺がんなど「西洋型」のがんが増加しています。こうしたがんは放射線治療の役割が大きく放射線治療患者数はこの20年で約3倍に増加しています。

がん患者の高齢化が進んできたことで、がんだけでなく、様々な疾患を合併しているケースが増加し、低侵襲で高い治療効果を得られる放射線治療が普及する時代となって来ました。また、放射線治療は高いQOLを維持しながらがんを治癒に導けるという大きな利点を有しています。急速に進展している高齢化社会の到来の中で大きな期待が寄せられています。IT技術、画像技術の進歩と相まって放射線治療機器の高度化には目を見張るものがあります。分子生物学の発展により生物学的に放射線の効果を高める方法も急速に臨床に導入されています。

最先端の医療機器を駆使して、診断・治療を行っている放射線科は患者さんからは見えにくいかもしれませんが、日々、病院の縁の下の力持ちとして、診療を支えています。

応援メール

この度は松尾政之先生の岐阜大学大学院医学系研究科腫瘍制御学講座放射線医学分野教授へのご就任、心よりお祝い申し上げます。

先生と私との出会いは、名古屋市立大学医学部放射線科に芝本教授の推薦により准教授として2014年4月にご着任になった時が初めてでしたが、当初よりお話をお伺いする多くの機会に恵まれました。松尾先生は米国NIHに在籍中、新しい磁気共鳴画像を用いた腫瘍内微小環境に関する基礎研究に打ち込まれ、大きな業績を残されました。当教室においても、着任早々に実験室をご覧になり、早速若手放射線治療医の基礎研究の指導に着手されました。私自身も、先生がこれまで培ってこられたご経験より数多くのアドバイスとご助力をいただき、当教室の研究員として引き続き在籍されながらご指導を賜りつつ現在に至っております。

松尾先生といえば非常に気さくなお人柄で、治療医だけでなく診断医のレジデントに対してもいつも温かく声をかけ、時には飲みに連れて行かれ仕事の話から離れてプライベートなことにも親身になって相談に乗るなど、若手医局員からも大変慕われる存在であります。

また各方面に驚くほどお知り合いが多く、私も先生を通じてこれまでに様々な方との貴重な出会いを経験させていただきました。こうした豊富な人脈は、誰に対しても分け隔てなく大切にされる先生のお人柄によるものでしょう。一方で、臨床、研究いずれにおいても妥協せず最後まで責任を持つという、医療、医学に対する厳しく真摯な一面も強く印象に残っております。

正直なところ、このように早く松尾先生と離れてしまうことになり少し残念ではありますが、今後は主任教授として岐阜医療圏のみならず日本の放射線医療の発展に大きな役割を果たされることと確信しておりますので、今後のご活躍を心より期待しつつ、少しでも恩返しができるよう精一杯応援してまいりたいと思います。

名古屋市立大学大学院医学研究科放射線分野　医局長　河合 辰哉

▲前勤務先の名古屋市立大学医学部放射線科のみなさん

難病の新たな治療法を開発する

岐阜大学大学院医学系研究科整形外科学 教授
岐阜大学医学部附属病院整形外科 科長
秋山 治彦

PROFILE

秋山 治彦（あきやま はるひこ）
専門／股関節外科学・骨粗鬆症
学会／日本整形外科学会（代議員）
日本人工関節学会（理事）
日本骨代謝学会（評議員）
日本軟骨代謝学会（理事）
International Hip Society など

1988年／京都大学医学部卒業、同医学部附属病院などで研修
1998年／京都大学大学院医学研究科卒業
1999年／テキサス大学MDアンダーソン癌センター留学
アシスタントプロフェッサーとして勤務
骨軟骨細胞分化の基礎研究に従事
2004年／京都大学医学部整形外科助手
2007年／同産官学連携准教授
2012年／同准教授
2013年／岐阜大学大学院医学系研究科整形外科学教授

特発性大腿骨頭壊死症（とくはつせいだいたいこっとうえししょう）の患者さんを対象に臨床試験（治験）を開始いたしました。

特発性大腿骨頭壊死症とは、大腿骨頭の一部が、血流の低下により壊死（骨が細菌などで腐った状態ではなく、血が通わなくなって骨が死んだ状態）に陥った状態です。骨壊死に陥った部分は潰れることにより、痛みや歩行障害などが出現します。特発性大腿骨頭壊死症は、危険因子により、ステロイド関連、アルコール関連、そして明らかな危険因子のない原因不明の特発性に分類されていますが、骨が壊死を起こす理由はまだ分かっていません。また、壊死した骨を再生するための治療はまだ開発されておらず、この病気は、国の難病に指定されています。骨が潰れた場合は人工関節置換術が行われていますが、人工関節の寿命は20-30年と予想されていますので、将来の入れ替えの手術の必要性など不安な点もたくさんあります。

特発性大腿骨頭壊死症

（日本整形外科学会HPより引用）

男性では40代、女性では30代にかかることが多く、骨が潰れてしまうと痛みや歩行障害を引き起こします。

本年1月から、岐阜大学医学部整形外科学教室および岐阜大学医学部附属病院先端医療・臨床研究推進センターを中心として、東京大学・京都大学・大阪大学と共同で、特発性大腿骨頭壊死症患者さんの病変部位に治験薬（塩基性線維芽細胞増殖因子（えんきせいせんいがさいぼうぞうしょくいんし））を注入し、骨の再生を促す効果を発揮するかどうか、安全性（副作用など）に問題がないかを調べる多施設共同医師主導治験が開始されました。

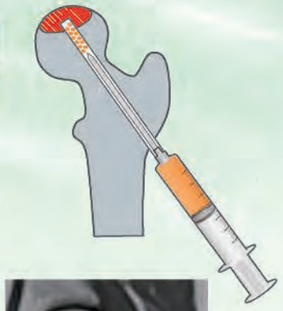
治験の対象となるのは大腿骨頭の骨が圧潰していない（つぶれていない）初期段階（ステージ1またはステージ2）の大腿骨頭壊死症の病変の患者さんです。治験薬の病変部位への投与は、低侵襲（ていしんしゅう）で短時間の手術により行い、1回のみの投与で、その後2年間の観察を行います。

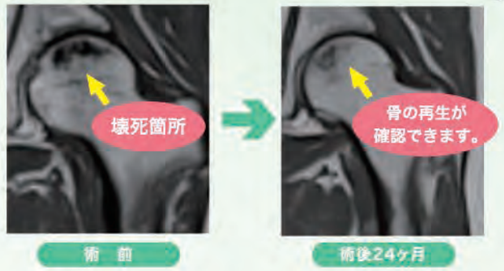
治験薬投与の方法

骨に穴をあけ、注射器を使って壊死箇所に治験薬を投与します。

手術時間は平均18分で、入院期間は1～4日間。

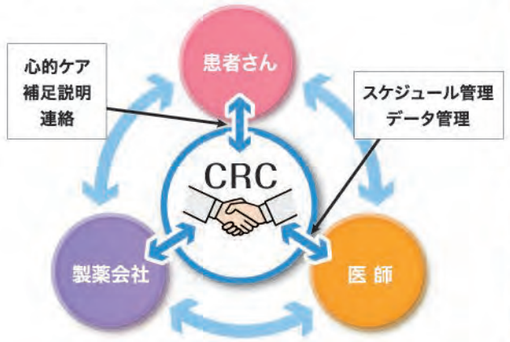
皮膚は1㎝程度切るだけで、出血もほとんどありません。





治験を支えるスタッフ CRC

治験コーディネーターはCRC（Clinical Research Coordinator）と呼ばれ、患者さんと医師の間に立ち、治験がスムーズに行われるようサポートをします。診察に立ち会い、患者さんがご納得いただけるまで治験内容を分かりやすく説明したり、不安や心の負担が和らぐよう心理的なサポートをするほか、スケジュール管理などのマネジメントも行うといった重要な役割を担っています。



▲ CRCとのミーティング中の風景

特発性大腿骨頭壊死症の患者さんは、岐阜大学医学部附属病院整形外科外来にお尋ねください。

岐阜大学医学部整形外科学教室は、今後も、治療法が確立されていない病気を、なるべく身体に負担が少ない方法で治療する新しい方法の開発に取り組んでいきます。

医薬品の適正使用推進・副作用管理で病気からの早期回復や生存期間の延長に繋げる

薬剤部では、患者さんへの貢献を第一に考え治療に関わっています。

「外来がん化学療法」「耳鼻科病棟」「院内感染対策」における取り組みを例に、薬剤業務の臨床的有用性をご紹介します。

外来がん化学療法への関わり　全患者面談により副作用を軽減！

2008年4月から薬剤師による患者指導を開始し、現在、薬剤師9名が交代で全ての患者さんに面談を行っています。2011年からは診察までの待ち時間を利用した「診察前患者面談」を実施しています。患者情報をリアルタイムでカルテに記入し、その情報を診察時に医師が利用することにより診療効率が向上し、患者数は7年間で3倍に増加しました。全患者面談により、詳細な副作用発現状況が把握でき、予防もしくは重篤化回避による治療の継続に役立てています。

▲診察前患者面談の様子

悪心・嘔吐コントロールに関する調査

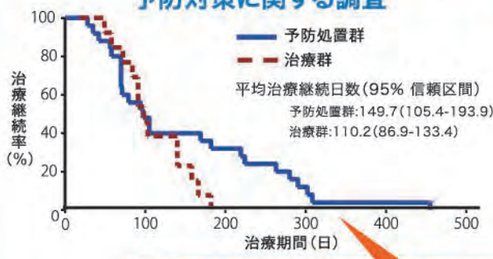
（調査期間 2012年1月～2013年12月）

実患者数	779人
延べ患者数（実施コース数）	5,511人
抗がん剤治療が初めて行われた患者数	608人
その内、悪心・嘔吐が出やすい治療が行われた患者数	263人（43%）
その内、指針に従った制吐対策が行われた患者数	225人（86%）
悪心・嘔吐がコントロールできた患者数	206人（78%）

高い数値を維持しています

面談時に「お薬手帳」に治療での注意点や副作用発現状況、検査値などを記載します。がん化学療法時の注意点等を記した患者向け冊子もお渡しします。

「パニツムマブ」を使用した皮疹に対する予防対策に関する調査



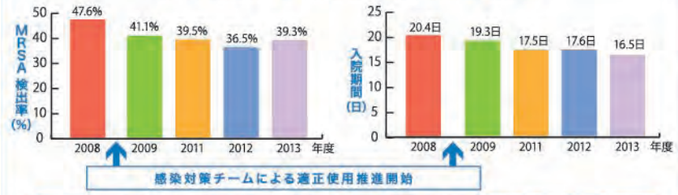
転移大腸癌患者さんの治療継続期間が延長しました

Yamada M ら.Anticancer Research（2015）より

感染対策への関わり　抗菌薬の適正使用推進により入院期間を短縮！

感染対策チームでは、注射用抗菌薬が使用された全ての患者さんの処方を毎日チェックしており、感染症の原因菌に対する最適な抗菌薬の選択や用法・用量の提案を行い、抗菌薬の適正使用を推進しています。その結果、抗菌薬に耐性を持った菌の発現率が低下することで、感染症が早期に治癒し、入院日数は年々短縮されています。

抗菌薬適正使用推進による臨床効果



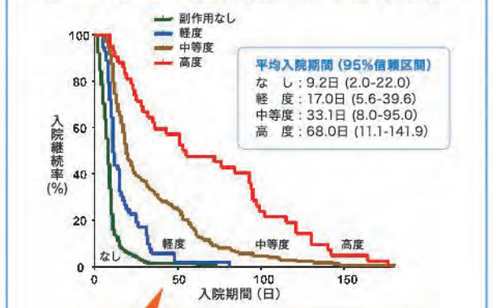
耐性菌 MRSA検出率が減少しています

入院期間が短縮しています

耳鼻科病棟への関わり　副作用対策により入院期間を短縮！

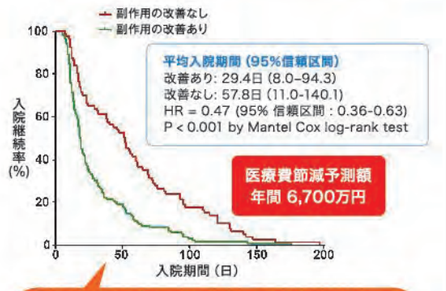
耳鼻科病棟では、薬剤師が常駐し全ての患者さんに対して服薬管理や指導を行い、医師や看護師と連携して副作用チェックと副作用対策を実施しています。副作用が発現すれば、その重症度に比例して入院期間が延長しますが、副作用予防もしくは軽減のための処方介入を行うことで、多くの副作用を改善させています。副作用が改善すると入院期間が短縮されることも明らかになっています。

副作用の重症度による入院期間の比較



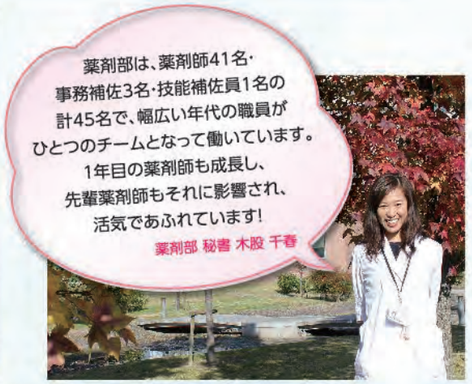
重症度に比例して入院期間が長くなっています。

処方介入による入院期間の比較



副作用が改善した群では、改善しなかった群と比較して入院期間が顕著に短縮されています。

小倉病院長と薬剤部のみなさん



薬剤部の理念

薬物治療における安全確保、患者のquality of life向上、治療効果の向上、医療経済的効果等、患者利益への貢献を念頭に置いた薬剤業務の展開を考える

岐阜大学医学部附属病院 薬剤部 部長　伊藤 善規

患者さんにとって最善の治療を選択し、自分らしく生活するために・・・

1 あなたはご自分で治療を選択できていますか？
患者さんにとって最善の治療や療養生活を選択する時には医療者と患者さんが互いに話し合うことが重要です。

STEP 1 医師からの説明
最善と考えられる治療について

STEP 2 患者さんの思いを伝える
- 病気や治療に対する思い
- 仕事、家庭の都合など

わからないこと、確認したいこと、納得するまでどんなことでも質問しましょう。

STEP 3 患者・家族・医療者が相談
勧められる治療と患者さんの状況から皆で最善策を検討する

薬剤師・栄養士などいろいろな職種が関わります。

STEP 4 治療の決定
- 治療の決定
- 治療変更の決定
- 療養場所の決定

2 治療を受ける上でご自身の考えを決める時期は以下のようなときです。

- 治療の内容を決めるとき
- どこで治療をするか決めるとき
- 治療を続けるのが難しくなったとき
- 療養の場所を決めるとき　など…

3 先ずは看護師に話してみてください！

私たち看護師は、患者さんとご家族にとって最善の治療および療養生活をサポートしたいと考えています。
そのために右記の内容等について教えてください。

- 医師からの病気、治療に対する説明をどのように受け止めたか。
- 診断をされたときにどのように感じたか。
- 治療を受けるに当たり、医師に確認したい点、分からない点。
- 治療を受ける上で、仕事や家庭に問題はないか。
- ご家族とは治療に対してどのように話し合ったか。
- 体の痛みや、夜眠れない等の困りごとはあるか。
- 治療を終えたときの、療養先の希望はあるか。
- その他、気がかりなこと。

私たち医療者は、ご相談いただいた患者さんやご家族の思いを受けて、患者さんがご自分で最善の治療を決めることができるようにお手伝いします。

栄養管理室から

小児科に入院している子供たちやその保護者の方を対象として栄養管理室が実施しているイベントを紹介します！

体験イベント1
ハロウィン 秋のお抹茶会

食堂を飾り付け、お抹茶会がスタート！
本物のお抹茶はおいしかったかな？

子供たちの笑顔が私たちのビタミン剤です。

食育イベント 栄養学級

「入院中の食事はどうやって決められているの？」
「退院後の食事で気をつけることは？」など
楽しみながら食の大切さを学ぶことができました。

栄養士さんのお仕事

朝ごはんを考えよう

体験イベント2
クッキーに絵をかこう！

「クッキーに絵をかきたい」
という希望を叶えるため企画しました。
みんなとても上手に描けました。

食事を楽しみにしている患者さんのため、また、保護者の方にも息抜きをしていただけるよう、これからも様々なイベントを企画していきます。

栄養管理室 田村 孝志
シダックス事業所 藤島 志保子